

## 視 察 報 告 書

### 1 視察年月日

令和7年5月13日から5月14日まで

### 2 視察場所

令和7年5月13日(火) 敦賀市知育・啓発施設ちえなみき

令和7年5月14日(水) 富山市立図書館

### 3 視察事項

- ・敦賀駅西地区土地活用事業について
- ・敦賀市知育・啓発施設ちえなみきについて
- ・富山市立図書館本館の取組について

### 4 視察参加者(9名)

赤羽直一、金澤克仁、岩澤信、小堤修、鈴木三男、海東一弘、杉山尊宣、岡口澄江、長塚美雪

### 5 視察行程 別紙のとおり

### 6 視察報告 別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 岩澤 信 殿

令和7年5月27日

取手市議会 会派創和会 代表者 金澤 克仁

## 茨城県取手市議会 会派 創和会 行政視察行程表

行先	福井県敦賀市・富山県富山市
期間	令和7年5月13日(火)～5月14日(水)

日付	時刻	スケジュール	メモ	
1 日 目	5月13日 (火)	7:00	(集合) 取手駅西口	敦賀市知育・啓発施設 「ちえなみき」 敦賀市鉄輪町1丁目5番 32号 otta内 電話：0770-47-5606  敦賀市議会事務局 電話：0770-22-8157
		7:21	取手駅-(快速品川行)->東京駅(8:14着)	
		8:33	東京駅 -(ひかり635号)->米原駅(10:47着)	
		10:56	米原駅 -(しらさぎ5号)->敦賀駅(11:26着)	
			(昼食) 敦賀市内	
		13:30	敦賀市行政視察 ・敦賀駅西地区土地活用事業について ・敦賀市知育・啓発施設ちえなみきについて (現地視察)	
		15:30	視察終了	
			(夕食) 敦賀市内	
		(宿泊) ホテルグランビナリオ敦賀		

日付	時刻	スケジュール	メモ	
2 日 目	5月14日 (水)	8:31	敦賀駅 -(つるぎ4号)->富山駅(9:53着)	富山市立図書館本館 富山市西町5番1号 電話：076-461-3200  富山市議会事務局 電話：076-443-2158
			～タクシーで富山市立図書館本館に移動～	
		10:30	富山市行政視察「富山市立図書館本館の取組」 (富山市立図書館本館)	
		12:00	視察終了	
			(昼食) 富山市内	
			(観覧) 富山市ガラス美術館	
		16:31	富山駅 -(はくたか570号)->上野駅(19:06着)	
		19:27	上野駅-(快速土浦行)->取手駅(20:11着)	
		(解散) 取手駅		

# 行政視察報告書

取手市議会議員 海東 一弘

## 1 視察日

令和7年5月13日（火）

## 2 視察先

敦賀市知育・啓発施設「ちえなみき」

福井県敦賀市鉄輪町1-5-32 otta内

## 3 調査項目

- 敦賀駅西地区土地活用事業について
- 敦賀市知育・啓発施設「ちえなみき」について

## 4 視察内容

### ●敦賀駅西地区土地活用事業について

#### (1) 事業の経緯

貴市では、敦賀駅西地区を港まち敦賀の玄関口にふさわしい賑わい・交流拠点とするため、平成17年度から土地活用について検討を開始され、平成18年には「駅周辺整備構想」が策定された。その後、平成23年3月の東日本大震災の影響や貴市の財政事情等を踏まえ、平成25年2月に「敦賀駅西地区土地活用事業計画中間とりまとめ」の見直しが決定された。

平成27年1月には、北陸新幹線敦賀開業3年前倒し決定及び同年5月の金沢敦賀間ルートの変更認可を受け、新幹線開業に向けた受け皿作りが喫緊の課題となったことから、平成27年7月にあらためて駅周辺整備構想策定委員会を開催、駅西地区土地活用案の具体化に取り組むこととされた。また、貴市議会においても、平成27年7月に新幹線対策特別委員会が設置され、今後、駅西地区の土地活用策を協議していくことが確認された。平成28年1月には、直接市民から駅西地区の整備に関する意見を聞く機会を設けるため、自由参加型のワークショップを開催し多方面から広く意見を聴取された。

これらを踏まえ、平成28年3月に、「駅西地区土地活用に係る整備の方向性について」を策定し、貴市としての整備の方向性が示されるとともに、今後の整備工程や取り組むべき課題について示された。

更に、平成28年11月には、本事業を民間のノウハウや資金等を活用した官民連携事業として実施することについて、「駅西地区土地活用に係るサウンディング型市場調査」が行われた。その結果、「民間資本を活用した事業については、民間参入を促す公募要件を設定することにより、整備は可能である。」と結論付けられた。

## (2) 事業の目的

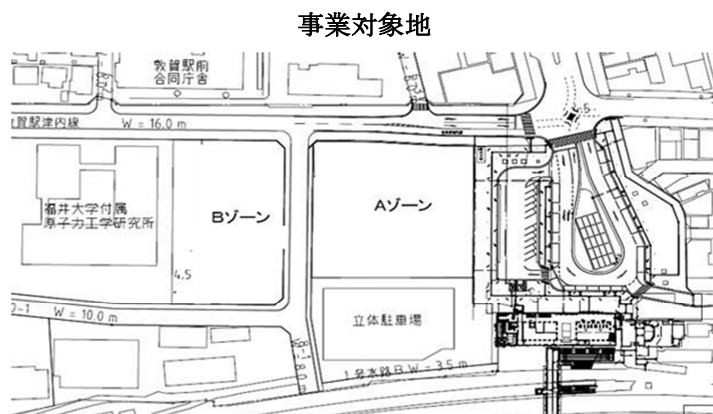
貴事業は長年にわたり、市民やさまざまな関係者、有識者、市議会等において検討に付されている。貴市の産業構造の変化及び人口動態を踏まえると、貴事業は貴市の今後の発展・成長を左右する極めて重要な事業である。

また、(当時)平成34年度末の新幹線駅開業は、対象地区の利便性を高め市民の日常的な利用に適した環境を創出するとともに、交流人口の増加、観光産業の振興、消費活動の活性化等、貴市の地域経済に対する好影響が期待される。

貴事業は、官民が連携して敦賀駅西地区を整備・運営することにより、来訪者にとっては氣比神宮、金ヶ崎エリアにいざなう「玄関口」、市民にとっては「普段使いの拠点」となり、結果として敦賀駅前に交流と日常的なにぎわいを生み出すことを目指すものである。

## (3) 事業内容

貴市は、貴事業に関する提案内容を公募型プロポーザル方式により募集し、応募事業者の中から優先交渉権者を決定する。貴市と優先交渉権者は、優先交渉権者決定後速やかに、事業実施に当たり基本的な事項を規定する基本協定を締結する。事業者は基本協定締結後、貴市との間で事業者の責任による提案内容の確実な履行の担保、業務・役割分担等について定めた基本契約書を締結し、事業対象地について、利活用を行う。



### ① 土地使用貸借契約の締結、提案施設の設計及び施工

貴市は、貴事業に対して事業者が提案する施設の設計及び施工を行う間、提案施設の建設予定地（活用エリア）について、土地使用貸借契約を事業者と締結し、無償で事業者に貸し付ける。事業者は、自らの費用により、提案施設の設計及び施工を行う。貴市は、Aゾーン及びBゾーンのうち、活用エリアを除く部分において、自らの責任により、公園の設計及び施工を行う。

### ② 定期借地権の設定

提案施設の供用開始日までに、貴市は活用エリアについて定期借地権を設定し、

事業者の有償で貸し付ける。ただし、Bゾーンについては、事業者からの提案があった場合、土地の買取りも可とする。

③ 公共機能の整備

貴市は事業者と定期建物賃貸借契約を締結し、提案施設の一部を借り受け、公共機能を設置する。公共機能の内装等の設計は貴市が行い、施工は事業者が行う。

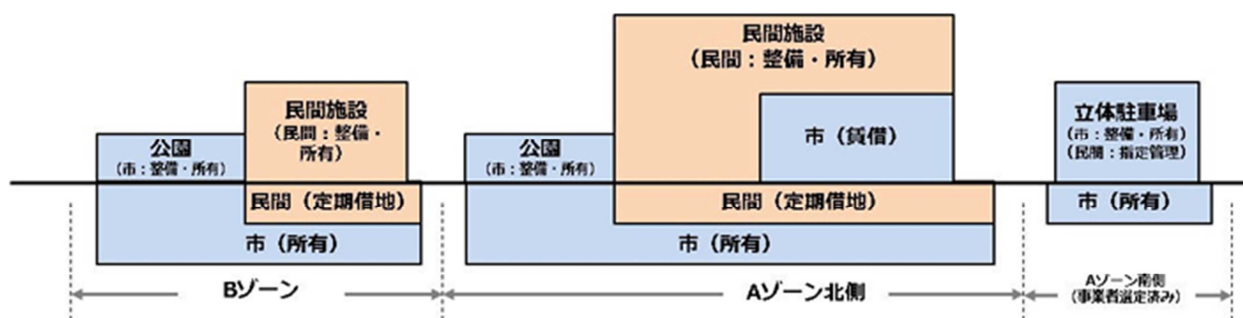
④ 提案施設及び公共機能等の維持管理・運営

事業者は自らの費用により、提案施設の維持管理・運営を行う。貴市は、提案施設に設置する公共機能について、事業者に賃借料を支払うとともに、公共機能の維持管理・運営を行う。また、公園についても、貴市が維持管理・運営を行う。

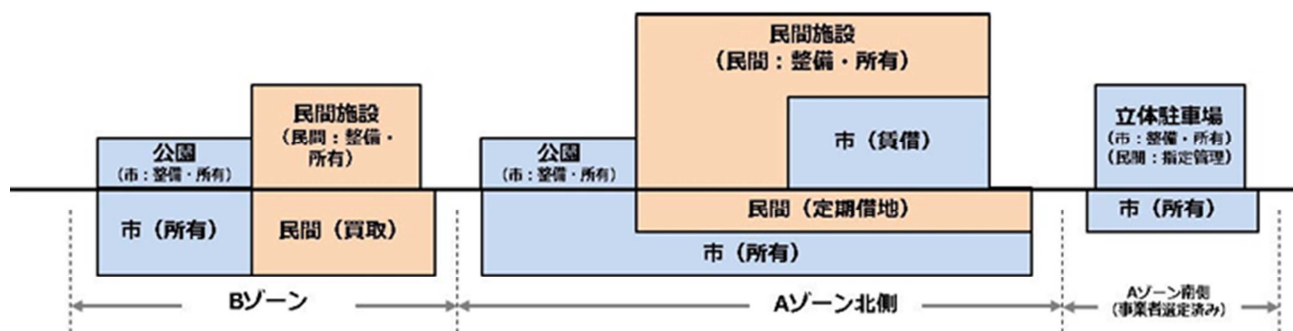
⑤ 事業終了時の措置

事業者は、原則、借地期間満了前までに、活用エリアを更地にして市に返還するものとする。

事業スキーム (Bゾーンが借地の場合)



事業スキーム (Bゾーンが買取りの場合)



(4) 事業スケジュール

項目	時期
募集要項等の公表	平成 30 年 8 月 1 日 (水)
優先交渉権者の決定	平成 30 年 12 月頃

基本契約の締結	平成 31 年 3 月頃
土地使用貸借契約の締結	平成 32 年 4 月頃 ※提案施設の着工までに実施。
公共機能部分の引渡し	応募者の提案による。 ※平成 34 年 4 月頃を想定。提案施設の供用開始日までに実施。
定期借地権設定契約の締結	応募者の提案による。 ※平成 34 年 4 月頃を想定。提案施設の供用開始日までに締結。
定期建物賃貸借契約の締結	応募者の提案による。 ※平成 34 年 4 月頃を想定。提案施設の供用開始日までに締結。
提案施設の供用開始	応募者の提案によるが、平成 34 年 12 月 31 日を期限とする。 ※本市では平成 34 年 4 月頃を想定。
事業用定期借地契約の終了	定期借地権設定契約の締結後、20 年以上 50 年未満の範囲で事業者の提案により決定する時期

## (5) 全体レイアウト案

令和 2 年 3 月には、全体レイアウト案がまとめられ、あらためて貴事業の目的や事業者、コンセプトなどが示され、構想が具体化された。

### 1. 事業の目的

官民が連携して敦賀駅西地区を整備・運営することにより、来訪者にとっては氣比神宮、金ヶ崎エリアにいざなう「玄関口」、市民にとっては「普段使いの拠点」となり、結果として敦賀駅前に交流と日常的なにぎわいを生みだすことを目的とする。

### 2. 民間開発事業者

合同会社敦賀駅西口 PJ

事業提案代表企業：株式会社青山財産ネットワークス

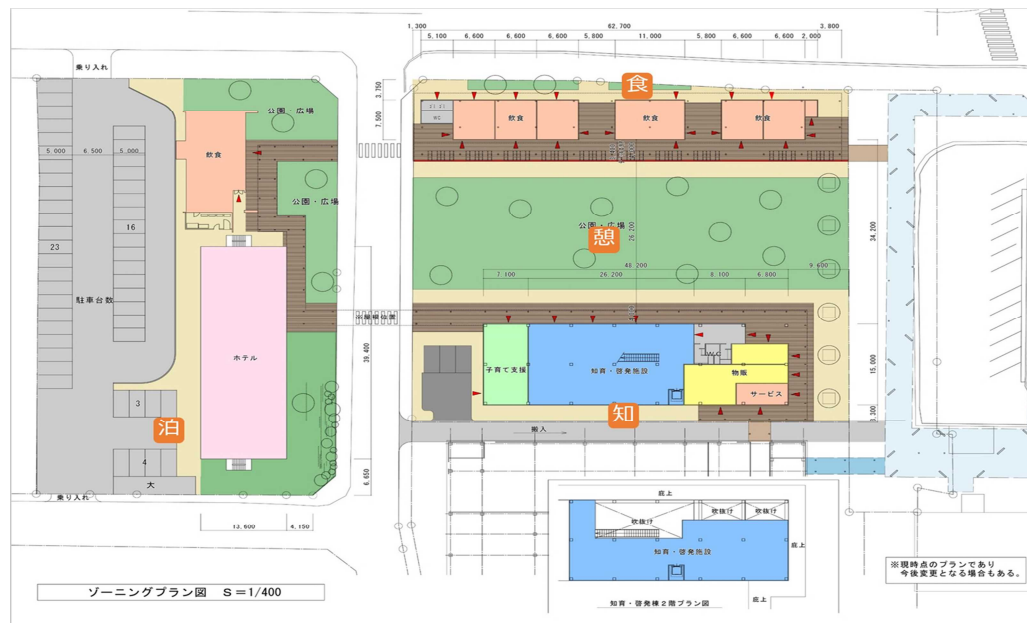
構成員企業：Hif リゾート株式会社

### 3. コンセプト

敦賀の玄関口にふさわしい交流と賑わいを創出

敦賀駅は金沢、東京方面への出発地となり、また、目的地ともなる。貴事業は、

そんな敦賀の玄関口にふさわしい、市民と来訪者の交流や賑わいの創出の拠点となるよう公園・広場と施設が、一体的に計画が進められている。ホテル、飲食・テナント棟、子育て支援施設、公共機能の各施設が、公園・広場を中心にコの字型に配置され、キャノピー（屋根）付遊歩道で繋がれることで、回遊性があり、統一感のある中低層の街並みが形成されている。



### 「泊」 ワンランク上の宿泊拠点

海外からの長期滞在宿泊客、また、国内外のVIPへも対応できるワンランク上のビジネスホテル「ホテルグランビナリオTSURUGA」。ビジネスタイプのシングルルームからエグゼクティブ対応のジュニアスイーツまで、ニーズに合わせた客室バリエーションを設ける。

### 「食」 賑わいを生み出す「食」を発信

港町・敦賀の玄関口となる駅西で、地域の新しいコミュニティーや賑わいを生み出す「食の発信拠点」となる。さらに、地元の名産品、お土産等の販売を行う物産品店舗も併設される。

### 「知」 知育・啓発の公共機能施設

「ちえなみき」は、”本屋“でもない”図書館“でもない、新たな知の拠点施設で、来館者が書籍を自由に閲覧・購入できる。また、ワークスペースやカフェも併設され、くつろぎと憩いの場も提供される。

さらに、子育て支援施設も、貴施設と融合し、外部の遊び場と一体となった託児スペースや親子広場も設置される。

### 「憩」 市民の憩いと交流の「公園・広場」

各施設を中心に位置する「公園・広場」部分は、来館者のみならず、市民の交流や憩いの場として開放され、各種交流イベントの開催など、賑わいの創出にも利用される。

●敦賀市知育・啓発施設「ちえなみき」



名称について

『ちえなみき』は、“知恵”“千枝”“並木”“波”“千重波”など、「敦賀の自然や知」を通して健やかに成長する様子を表す言葉が重層的に重なる名称で、市民公募が実施され106件の素晴らしい名称案の応募があり、最終候補案の決定がなされ、その中より選定された。公募にあたり、松原小学校の5年生を対象に、編集工学研究所によるオンライン授業「情報編集ワークショップ」も行うなど、多数の応募があった。

概要について

貴施設は、JR敦賀駅西地区に位置する全国でも珍しい公設書店である。取扱いは新刊だけでなく、絶版本や洋書、古書が混在した3万冊を超え、丸善雄松堂、編集工学研究所との本の目利きによる文脈棚による書籍が所狭しとならび、利用者を知の世界に誘っている。選書は「世界知」「日常知」「共読知」の3つの「知」で構成され、「世界知」のエリアは古今東西の知を文脈的に編集した書棚になっている。また、大都市の書店でもなかなか出会えない良書や、子どもたちのための絵本や知育玩具まで取り揃え、老若男女を問わず、知に触れる楽しさを提供している。店内にはワークスペースやミーティングスペースだけでなく、敦賀の人と活動を本を通じて紹介する『本人（ほんびと）』コーナー、市内老舗店を誘致したカフェスペースもあり、駅前の賑わい拠点としての機能を備えている。

コンセプトについて

空間コンセプト：World Tree～世界樹～

世界の神話にも登場する、世界が一本の大樹で成り立っているという「世界樹」という概念を取り入れている。「木」は豊穡な生命力、生産力の象徴とされ、

これをモチーフにすることで貴市に根差し、その成長と発展を支えていく「知の拠点」という施設コンセプトを表現している。

—空間コンセプト—



—ロゴコンセプト—



### ロゴコンセプト

本とともに人が成長していくというメッセージを「木」「並木」をモチーフに表現している。「木」は開いた本（枝）と人（幹）で構成され、知恵を育み、大きく成長していく姿を表し、意匠化した「人」の連なりで、人と人との繋がりや、コモンズ（共有資源・共有地）となることを表現している。また、ロゴタイプは、親しみあるやわらかさを表現し、季節ごとのカラーバリエーションも作成している。

### 今後の展開

開業前の準備期間からつながりを築いている貴市内の文教施設や、学校、企業、市民会議の方々と全国の丸善雄松堂・編集工学研究所の拠点や人的ネットワークをつなぎ、定期的なイベントだけでなく、これからの敦賀や嶺南地域の未来を考える対話の場を持ち続けることで、本屋だけ、図書館だけでは体験できない、敦賀市民による敦賀市民のための施設運営を目指している。

また、敦賀高校との LINE 公式アカウントの運営など、市内の方々への運営協力依頼も引き続き継続していく。

### 所見・所感

知育・啓発施設の「ちえなみき」について、施設を運営経営するうえで名称はとても大切な要素と思いました。「ちえなみき」と聞いてどのような想像をするか、「ちえ＝知恵」などとイメージを膨らませたり、道路沿いの「なみき＝並木」を思い浮かべたり、更には公募によりネーミングされたということですが、ご利用者や市民の皆様にご愛顧、親しまれる近道ではないかと感じました。また、ロゴマークにつきましても、重要なアイテムの一つと考えます。

大都市の書店でもなかなか出会えない良書や、子どもたちのための絵本や知育玩具ま

で取り揃え、お子さまからご年配の方まで老若男女を問わず、知に触れる楽しさを提供されています。店内にはワークスペースやミーティングスペースだけでなく、敦賀の人と活動を、本を通じて紹介する『本人（ほんびと）』コーナー、市内老舗店を誘致したカフェスペースもあり、駅前のにぎわい拠点としての機能が備えられていて、本市の事業や計画など参考になるのではないかと思います。

上記のとおり報告します。

## 行政視察報告書

取手市議会議員 杉山 尊宣

- 1 視察日 令和7年5月14日（水）
- 2 視察先 富山市立図書館
- 3 調査項目
  1. 施設について
  2. 予算・財政について
  3. 利用者数・利用状況
  4. サービス内容の充実
  5. デジタル化とオンラインサービス
  6. 地域・他団体との連携と地域貢献
  7. 図書館職員の人材確保と研修
  8. 環境に配慮した取り組み

#### 4 視察内容

今回視察した富山県富山市は令和6年3月末現在人口404,870人、面積1241.70km<sup>2</sup>、令和7年度は能登半島地震からの復旧・復興に全市一丸となり取り組むとともに、「人・まち・自然が調和する活力都市とやま」の実現を目指しています。また、これまでの「コンパクトシティ」構想を深化させる形で、「富山市版スマートシティ」を推進しています。デジタル技術とデータ活用を通じて、市民生活の質の向上と地域課題の解決を目指しています。

そして、富山市立図書館は、本館（TOYAMA キラリ内）を中心に、6つの地域館、16の分館、とやま駅南図書館・こども図書館、さらに3台の移動図書館と1台の配本車を運行しています。これにより、市内全域にわたる図書サービスを展開し、全国でも有数の館数を誇っております。以下に今回の調査項目の回答を記します。

#### 1. 施設について

##### （1）施設移転の経緯及び当初移転を拒否した理由について

まちなかの老舗デパートが老朽化し、市街地再開発が進められることになり、中心市街地の重要なエリアに位置することから、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」推進の一環として、市民誰もが親しめる公共施設としてガラス美術館・図書館を整備することになった

また、移転を拒否したことについては、時のことを知る職員が在籍しないため不明である

##### （2）図書館の施設（建物、設備）状態について、現状で課題はありますか？

また、本館以外の図書館施設の運営管理についても教えてください

設備の保守点検を継続的、計画的に行っているが、それでも故障が発生する

特に利用者のフロア間の移動に主に使われるエスカレータの故障が増えていることが課題。本館以外の地域館、分館でも老朽化による故障や修繕がしばしば発生しているが、建物の管理は図書館ではしていないため、大掛かりなものについては、地域館・分館が入居する建物全体を管理する他部局の所管課に依頼している。

## 2. 予算・財政について

(1) 図書館予算の決定方法や使い道について、工夫されていることはありますか？

令和6年度は教育費が12,992,636千円であり、社会教育費が2,877,177千円、うち図書館費が850,914千円。図書購入費は73,000千円で中核市平均の約44,000千円を上回る予算計上をしている。利用者の安全管理にかかるもの、図書館サービスの維持にかかるものを優先

## 3. 利用者数・利用状況

(1) 図書館利用者数の増減傾向について。

登録者数（過去5年に貸出実績がある利用者）は、年々減少傾向。

貸出冊数は、増減を繰り返しているが、コロナ禍や地震で休館したことも一因と考えられる。

(2) 特定の年齢層や地域で利用者数に偏りがありますか？

本館は、若年層から高齢者までどの世代も利用がある一方、分館・地域館は若年層の利用が少なく、中高年の利用が多い。

## 4. サービス内容の充実

(1) 富山県立図書館が特に成功していると考えられる取り組み（イベントやプログラム）があれば教えてください。

① 25の図書館施設と自動車文庫からなるネットワークで市民の利便性を図り、かつ各館の特性に合った情報サービスに努めている。

② 本館は、中心市街地に立地する施設としてにぎわい創出と読書普及を目的に講師によるセミナーや作家による講演会や原画展、ビジネス相談、コンサートやワークショップ、児童向け行事など多岐にわたるイベントを開催。中規模館である4地域館においてもセミナーやワークショップを開催している。

（6年度は164回29,070人の参加者）

## 5. デジタル化とオンラインサービス

(1) オンラインでの資料貸出やイベント参加など、デジタル化が進んでいる分野とその評価はどうですか？

① オンラインでの資料貸出

電子書籍は未導入

② イベント参加

コロナ禍においては ZOOM 等でのオンラインイベントを実施。講師の許可が得られたものについては、動画を公式チャンネルで公開。

(2) デジタル化の進展により、利用者からのフィードバックや要望は変化していますか？

- ① ホームページからのインターネット予約利用者の増加。(予約数全体の約 4 分の 3)
- ② 利用者アンケート等で、電子書籍の導入を希望する層が増加。
- ③ 図書館公式メのフォロワー数の増加、閲覧者数の増加。
- ④ 事前申込制イベントにおけるメールを利用した申込者の増加など

## 6. 地域・他団体との連携と地域貢献

1) 富山市の地域住民や学校、その他の公共施設との連携・協力関係はどのように行われていますか？また、招待事業を行うに至った経緯とその魅力を教えてください。

① ア 保育園等の招待、小学 2 年生の学級招待、学校からの施設見学、小中学校への団体貸出、地域の子ども文庫・学童、保育園への団体貸出、講師派遣（地域への出前講座、親子サークル、その他）。

イ 交流行事における国・県・市が運営する各種団体との連携。60 歳以上のシニアによるポップを図書と共に展示する図書館ポップクラブ。

ウ 本館が入る TOYAMA キラリ内の富山市ガラス美術館と学校招待プログラムやコンサートの連携を行う。

② 招待事業（保育園等の招待、小学 2 年生の学級招待、学校からの施設見学）については、昭和 45 年開館の翌年に学級招待を実施して以来、継続的に行われてきた基本的な読書普及事業である。園児・児童・生徒に身近な図書館に親しみを持たせ、読書普及につなげることを目的としている。

(2) そのほか、民間事業者や専門機関、団体等との連携の取組があれば教えてください。

① 本館が入る TOYAMA キラリ内の富山第一銀行とは新採研修への協力や読書手帳の発行に協力してもらっている。

② 交流行事において、市民病院や富山大学等から講師を招いたセミナーを実施。

③ 雑誌の購入費を負担してもらう雑誌スポンサー制度は、民間事業者や公的施設にスポンサーとなっていていただいている。

## 7. 図書館職員の人材確保と研修

(1) 図書館職員の数は十分ですか？業務負荷や人員等の課題はありませんか？

直営職員数 53 名委託従事者 107 名

必要最低限の職員数で運営している。

(2) 職員の研修やスキルアップのための取り組みはどうなっていますか？

① 館内整理日にレファレンス研修や児童サービス研修を実施。児童サービス研修は委託会社の職員も受講可能とし、市立図書館全体でのスキルアップに努めている。

②県内外で実施される図書館職員向け研修に随時職員を派遣。受講者は整理休館日などに研修報告を行い、研修で得た成果や情報を職員間で共有。

8. 環境に配慮した取り組み

(1) 図書館の運営において、環境に配慮した取り組み（省エネルギー、リサイクル、エコ建材の使用など）は行われていますか？

図書館運営として直接的に配慮できている取り組みはないが、本館がある TOYAMA キラリは壁面緑化と太陽光発電システムが設置されているほか、利用者用の駐車場を設けず、公共交通を利用してもらうよう配慮している。

以上で、富山市立図書館の視察報告とします。